

群馬県軟式野球選手を対象にした成長期スポーツ障害検診 群馬県高校野球投手メディカルチェック

群馬大学大学院医学系研究科整形外科学
筑田 博隆
群馬大学大学院保健学研究科リハビリテーション講座
田鹿 毅
群馬大学医学附属病院整形外科
設案 仁

成長期スポーツ障害検診（H25年2月～開始）



Patient's delayの予防

➢ OCD発症から、疼痛症状や野球活動や日常生活に「実害（投球困難やADL困難）」が生じるまでのtime lagのため治療開始年齢の遅延が生じる可能性が考えられる



➢ 早期病期の段階、かつ無症候性のうちにOCD発症野球選手の早期治療を行う必要がある

➢ 超音波を用いた野球検診の普及の必要がある

2023年度の成長期スポーツ障害検診

本年度は214人の小学生野球選手が参加した。肘関節超音波検診のみ行った。



検診の重要点

➢ 検診の重要点

アンケート調査、一時検診、二次検診、結果のフィードバックとこの一連の過程を滞りなく行うことが見逃し、誤診を低下させることができ、被験者側の信頼を得て長く検診継続することができる
柏口ら 整スポ会誌33 2013

➢ 4者間の信頼関係

選手を中心としたこの4者間の信頼関係を築くことは、野球肘障害に対する共通認識を持つために必要不可欠である



群馬県高校野球投手メディカルチェックの概要

